

# ①ブツ込み釣りスタイル

仕掛けがシンプルであるうえ、ウキがないことからライン修正などの操作も不要であるなど、カゴ釣りの中でも特に気軽にチャレンジできるスタイルです。基本的には、シモリが点在する砂地帯の地形変化、波止回りやゴロタ場のカケアガリといったピンスポットへ投入して待つだけでOKです。こまめに仕掛けを打ち返してポイントを作り上げれば連続ヒットも期待できます。

主なターゲット：チヌ・イシダイ・カレイ・コロダイ・フエフキダイ・ガンフアをはじめとする根魚など

## 道糸：ナイロン3～5号

トラブルが少なく扱いやすいナイロンが基本です。号数はターゲットのサイズや釣りの地形に応じて3～5号から選びましょう。細いほど糸グセがつきにくく、扱いやすいというメリットがあります。

## 中通しオモリ（オタフクオモリなど）10～15号

潮に流されにくいオタフク型が一般的。オモリとサルカン部が干渉する際に起こる結び目の劣化を防げるゴム管がついたタイプがおすすめで（オモリとサルカンの間にゴム管を入れてもよい）。軽い号数から使用し、仕掛けが流されるなら重い号数にかえていきましょう。

## サルカン（スイベル）

中通しオモリが抜けにくい大きさを選択しましょう。大物も期待できる釣りだけに5～7号クラスを使うのが無難です。

## ハリス：フロロ3～4号1匹

根ズレに強いフロロを使用するのが基本です。刺し餌が撒き餌と合いくくなるため、長さは1匹程度が適当です。号数はターゲットや釣りの地形などを考慮して調整しましょう。

## ナイロンカゴ ステンレスワイヤーカゴ10×5号

口を絞り込める中着タイプのナイロン製やステンレスワイヤー製のカゴをスナップを用いてサルカンにセットするスタイルが手軽です。大きいサイズほど1度にたくさん撒き餌をきかせられますが、仕掛けの自重がかさむと投入時のコントロール性がわるくなるため深さ10号程度のサイズ（撒き餌を入れた状態で鶏卵ほどの大きさ）を選びましょう。網目の大きさは1～1.5号角が標準です。

なお、オモリ+カゴの仕様ではなく、オモリを備えた遠投力ゴを用いたり、天秤を用いてオモリとカゴをセットするペタランもいます。

## ハリ：伊勢尼8～10号

大物から小物までいるいるな魚種が期待できる釣り場であれば、強度に優れた万能バリといえる伊勢尼がおすすです。使用する餌、ターゲットの大きさに合わせて号数を選択しましょう。

なお、トラブルが少ない1本バリがおすすですが、仕掛けの扱いに慣れればヒットの確率が高まる2本バリ仕掛けにもチャレンジしてみましょう。

竿：磯竿3～4号5号クラス  
使用する仕掛けの重さ（潮流で流されない重さ）に合わせて号数を選択しましょう。磯竿の適合オモリは、3号で5～10号、4号で10～15号というのが一般的です。カゴに詰める撒き餌の重量も加味すると、4号をセレクトするのが無難だといえます。

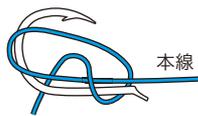
仕掛けの全長（カゴからハリまで）が3号未満なら10～20号クラスの投げ竿を使うのもいいでしょう。

リール：スピニングリール  
3000～4000番  
ナイロン3～5号の道糸が100～150号巻けるサイズを用意しましょう。

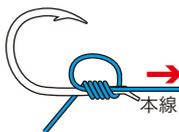
## ハリへの結び方

※内掛け結び

①軸に沿わせたりスを折り返し、ハリを軸と本線を巻き込むように端糸を輪に通す



②5回ほど巻きつけたらハリスの本線側を引いて軽く締め込む



③必ずハリの内側にハリスの本線に沿わせて結び目をチモトまでズラす。本線と端糸を引いて完全に締め込み、余分なハリスをカットすれば完成

